

平成 31 年 2 月

児童発達支援センター ガイドラインによる自己評価  
結果・改善点・公表方法等に関する報告

社会福祉法人こぐま福祉こぐま学園  
児童発達支援センター ゆう

【アンケートの実施】

- ・保護者アンケート調査 : 回収率 97% (70 人配布中 68 人回収)
- ・職員自己評価 : 職員 100% (19 人中 19 人回収)

【各項目に関する回答集計データ】

項目	調査からの読み取り	改善目標・工夫している点
環境・体制整備 業務改善	保護者は概ね適切と感じておられます。 保護者より、スペースに関しては、「人数が多い時でも、十分走ったりするスペースがある」「遊具、体育館もあり、たくさん遊べている」との声がありました。建物に関しては「古い」等の老朽化に対してご意見あり、職員数に関しては「職員が大変そう・職員をもう少し増やしてほしい」というご意見がありました。	同伴通園を行なっている当センターとしては今後も保護者に療育場面を見ていただき、保護者との連携の中で意向等を把握し業務改善につなげていきます。 スペース及び職員数は、基準より多く確保しています。建物は古くなってきていますが、使いやすさと清潔感を保つために職員で見直していきます。職員体制は、応援体制の見直しを行います。
適切な支援の提供	保護者は概ね適切と感じておられます。 ただし、保育所等との交流では「いいえ・わからない」の回答が 20%ほどと多かったです。 職員は、適切な支援の提供ができていると概ね感じており、職員間で打ち合わせをして支援の内容や役割分担について確認するという内容ではできていると感じています。	今後も満足いただけるように適切な支援の提供に取り組んでいきます。 保育所等との交流は、現在 5 つの園と 3 歳以上児に対して積極的に行っています。低年齢児に対しては、個別での交流や就園の相談にのっていきます。
保護者への説明等	保護者は、保護者との連携支援以外では概ね適切と感じておられます。 保護者との連携支援ができているとの回答は、職員からは 100%でしたが、保護者からは 50%に留まりました。	アンケートの結果からの保護者と職員の感じ方の違いは、保護者への説明や連携の時間が不足していると考えられます。今後、より説明を増やし保護者同士の連携の時間を設けていきます。
非常時の対応	保護者は、概ね適切と感じておられます。	センターでは、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定してい

		ます。今後、より周知に取り組んでいきます。非常災害の発生に備えての避難、救出、その他必要な訓練は毎月行なっており、保護者にも協力していただいています。今後も継続して取り組んでいきます。
満足度	保護者からは、90%以上は楽しみにしていると回答あり、80%以上は支援に満足していると回答がありました。	今後も利用者に寄り添い、利用者の満足度をより上げることに取り組んでいきます。

### 【まとめ】

児童発達支援センターゆう は、年齢、状況に合わせて保護者同伴通園での集団療育を行なっています。職員は、医療職と福祉職が一緒になりチームアプローチでの支援を行なっています。

同伴通園の保護者支援の中で、保護者同士の連携の必要性を感じて今まで取り組んでまいりました。今回のアンケート調査より、保護者同士の連携支援に関して「できている」との答えは、職員と保護者との間に差が大きく、できていると感じている職員と裏腹に保護者の答えでは約半分に留まりました。この結果より、保護者への説明や連携の時間が不足していると考えられます。今後は、必要な説明を十分に行い、保護者同士の連携のきっかけ作りに力を入れていきたいと考えます。

職員間では、センターの取り組みを見直し、児童発達支援ガイドラインに沿って職員間の研修および外部研修等での職員の研鑽を進めていきます。施設の古さは否めませんが、利用者の満足にもつながった子ども一人一人に合った支援を行ない、今後も継続して療育に取り組んでいきたいと考えております。

今後とも皆さまに満足いただけるセンターを目指して進めてまいります。